

戦争を風化させず、 平和な世界を私たちから



平成24年8月7日から10日までの3泊4日の日程で、浦添市中学生平和交流団10人（中学生8人・教諭1人・引率1人）が被爆地長崎市を訪問しました。

問い合わせ 国際交流課 ☎876-1234（内線2611）

米軍を阻止しようと日本軍は激しく抵抗したことを知りました。また、浦添には数多くの日本軍陣地があったため、激しい戦闘が繰り広げられ、住民の40%以上が戦闘に巻き込まれ、尊い命を失ったことを学びました。

第2回事前研修では、沖縄戦の終結までを学ぶために「首里司令部壕」や「轟の壕（トウトルチガマ）」などの南部戦跡を巡り、「沖縄県平和祈念資料館」「平和の礎」「ひめゆり平和祈念資料館」を見学しました。轟の壕では、当時の住民の様子を知るために、実際に壕の中に入りました。壕の中は昼間でも懐中電灯が必要ほど真暗でした。交流団は、壕で生活する当時の過酷さを体験することができました。



▲平和の礎

▼轟の壕

青少年ピースフォーラム

8月8日、9日には、全国から集まった小中学生や高校生らと被爆の実相を学び「平和の尊さ」について考えました。フォーラムではグループに分かれて積極的な意見交換が行われ、「平和な世界をつくるためにできること」をテーマに平和宣言文を作成しました。

平和祈念式典

被爆67周年となった今回の式典では、国内外から多くの方が参列し、核兵器廃絶、恒久平和を願うとともに、原爆の犠牲となられた方々の冥福を祈りました。



▲式典後に献花をしました

恵みの丘長崎原爆ホーム

○被爆体験講話
原爆を体験された方々が入

浦添市では、昭和61年に「平和都市宣言」、平成8年に「核兵器廃絶宣言」を制定し、平和に対する意識を更に高めるため、平成8年度から中学生平和交流団を県外へ派遣しています。今年度で17回目となるこの事業は、平和学習を通して、未来を担う中学生が戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、次世代へと伝えていくことを目的としています。

長崎市では「長崎原爆資料館」や「永井隆記念館」などを見学し「被爆67周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」へ参列しました。また、「青少年ピースフォーラム」に参加し、原爆の実相を学ぶとともに、戦争のない社会をどのように実現していくかを意見交換しました。

事前研修 【浦添・沖縄戦を知る】

交流団は、長崎での本研修に備え、3回にわたって事前研修を行いました。

第1回事前研修では、嘉数高地やチフチャヤーガマ、前田高地といった戦跡を巡りました。戦時中、日本軍司令部は首里にあり、そこへ向かう

所するホームを訪れ、延田シズエさんから被爆体験を聴きました。27歳の時に被爆した延田さんは、当時の悲惨な状況を語ってくれました。被爆体験者から直接話を聞くことで、原爆の恐ろしさをより深く考える機会となりました。



▲延田シズエさん

○交流会

講話後に行われた交流会では、交流団がエイサーを披露しました。入所者の方々は大変喜んでいました。



事後研修

浦添・沖縄戦を学んだ事前研修や長崎での本研修を振り返り、学習の成果を市長に報告し、壁新聞を作成しました。

今回長崎へ行き、原爆の被害、恐ろしさを今まで以上に感じる事ができました。被爆者の話を聞き、戦争の悲しみ、憎しみを深く考える機会となりました。

原爆は、たくさんの人の命を奪い、生き残った人も後遺症が残るなどして、今でも人を苦しめているので、二度と使用してはいけないと思いました。

浦添中学校 河野 文暢

私は、この中学生平和交流団に参加して、被爆者の話から原爆の恐ろしさや、原爆投下時の様子を学びました。核兵器は一瞬にして全てを奪ってしまう怖いものです。戦争を二度と起こさないために、被爆者の方々が恐ろしさを伝えていますが、被爆者の方は高齢化が進んでいます。そのため、これからは私たちが伝えていきたいと思っています。

浦西中学校 又吉 あかり

今回の研修で原爆のことについて被爆者の方々に話を聞いて、原爆が恐ろしいものと改めて知ることができました。また、原爆が長崎に落とされた真相なども聴いて本当に勉強になりました。

この事実が忘れられないためにも、これからも、もっと平和について学んでいきたいと思っています。

仲西中学校 石垣 風海

私は、この平和交流団の体験で、戦争の恐ろしさ、平和の尊さについて学ぶことができました。地上戦、原子爆弾によってたくさんの命が失われ、たくさんの悲しみが生まれました。この辛い出来事を風化させずにたくさんの人に伝え、平和について考えていきたいです。

港川中学校 伏見 萌生子

宮崎県日向市との交流会

沖縄戦の際に浦添国民学校（現在の浦添小学校）は宮崎県の日向市へ疎開しました。そのことがきっかけとなって、今回、日向市中学生平和交流団が来市し、8月22日に交流会を行いました。交流会では、浦添市から日向市へ疎開された方の講話を聴いたり、両交流団で平和宣言文を作成したりしました。



▲疎開体験者講話の様子

今回の研修で、原爆や戦争の恐ろしさ、愚かさなど、改めて知ることができました。戦争体験者が悲しく辛い過去を話し、平和への願いを涙ながらに語ってくれたので、私たちがその願いを受け止め、次へと語り継ごうと思います。もう二度と同じ過ちを繰り返さないように伝えていきたいです。

神森中学校 比嘉 朱維

僕は、原爆で多くの方が亡くなったことは知っていましたが、今まではそこまで深く考えていませんでした。この研修で実際に被害者の体験講話を聞いたり長崎の戦跡巡りをして当時の状況を知り、今だけ自分が幸せなのかが分かりました。戦争があったということだけでなく、その戦争の悲惨さを伝えていくことが大切だと思います。

浦西中学校 比嘉 良太

私は、小・中学校で沖縄戦について学んでいたため、よく分かっているつもりでした。でも、今回詳しく学ぶと、私の地元である浦添が激戦地だったということを初めて知りました。今回の研修を通して沖縄戦について改めて学び、長崎の原爆の恐ろしさも学びました。これらをたくさんの人に伝えていきたいです。

仲西中学校 上間 和希

今回、原爆の悲惨さや恐ろしさ、平和の尊さについて深く学んでいく中で、今もこの恐ろしい爆弾・核兵器があることを知り、とても悲しくなりました。そのような中で、今世界が核兵器の恐ろしさや悲惨さに気づいているのは、被爆者の思いや訴えがあるからだと分かり、もっと戦争の悲惨さを伝えていくことが必要だと思いました。

港川中学校 下地 紀翠

第66回浦添市戦没者追悼式

先の大戦で亡くなられたみ霊のご冥福と世界の恒久平和を祈念するため、下記のとおり行います。市民の皆さまのご参加をお願いします。

日時：10月9日（火）午後2時開式

場所：浦和の塔（浦添城跡内）

問い合わせ 福祉課 管理係 ☎876-1234（内線3571・3572）